

世界的すさまじく発想。

 日本化薬



日本化薬グループのCSR

2019

NIPPON KAYAKU GROUP CSR REPORT

編集方針

日本化薬グループは「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える最良の製品・技術・サービスを提供し続ける」企業として持続可能な社会と環境に貢献し、すべてのステークホルダーの信頼に応えてまいります。

本冊子は、当社グループの活動内容をステークホルダーの皆さまに知っていただくために、一部を簡潔にまとめたコミュニケーションツールとして位置づけています。CSR活動の詳細はウェブサイト CSR情報 や統合報告書をご覧ください。

- 報告対象期間：2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)
※環境データの一部、海外グループ会社については、
2018年1月1日～2018年12月31日を報告期間としています
※一部の情報には2019年4月1日現在の情報も含まれています
- 参照したガイドライン：ISO26000
GRIスタンダード
環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- 報告対象組織：日本化薬株式会社、国内外のグループ会社
※環境・従業員データの一部は単体のみの情報を記載しています
- 発行月：2019年6月(前回2018年6月、次回2020年6月予定)



表紙写真について

- タイトル** 朝のコハクチョウ
撮影場所 埼玉県
撮影者 株式会社ニッカファインテクノ 宮田 明



撮影者コメント

コハクチョウは飛び立つ前に、鳴き声を発して呼吸を合わせます。そして、数羽がまず呼吸を合わせて、30～40メートルくらい水面を助走し、他のコハクチョウも一斉に水面を走ります。水を蹴りながら飛び立つ姿は、とても力強さを感じます。

 日本化薬株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号

TEL:03-6731-5200(大代表)

<https://www.nipponkayaku.co.jp/>

2019年6月発行

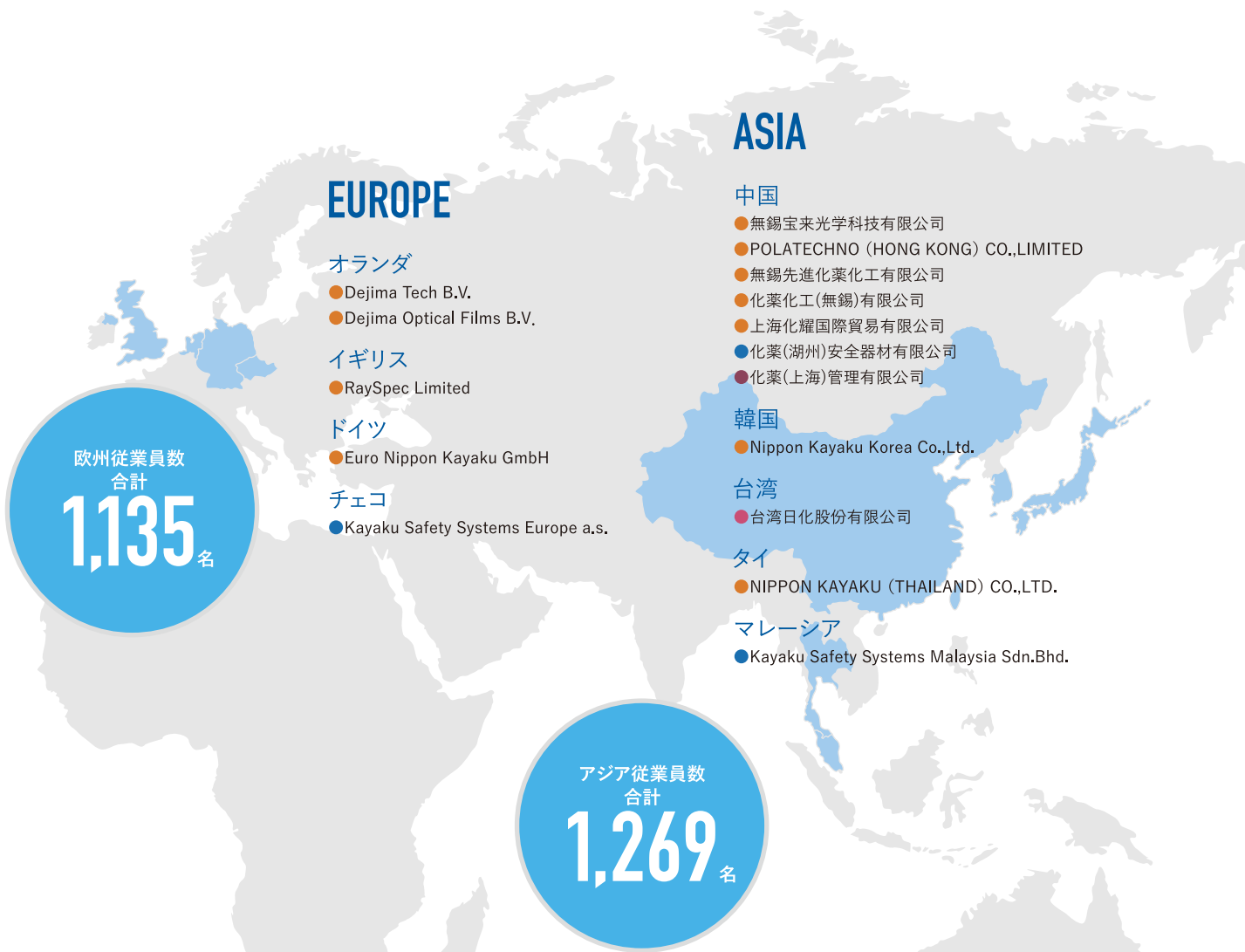


この印刷物は環境に配慮し、FSC™認証林および管理された森林からの製品である「FSC™認証紙」、石油系溶剤を100%植物油成分に置き換えたVOCフリーの印刷インキ、印刷工程で有害な廃液を排出しない「水なし印刷方式」を採用しています。

持続可能な社会の実現に向けて

About Nippon Kayaku Group

日本化薬グループは、事業を通じて「生命と健康を守る」「豊かな暮らしを支える」製品・サービスを提供し、すべての人びとが健康でいきいきと豊かに暮らせる持続可能な社会・環境の実現に貢献します。



事業概要

機能化学品事業



樹脂・色素・触媒をコア技術に、情報・通信、省エネ・省資源の分野へ特徴のある機能化学品を提供し、「超スマート社会」と「SDGs」の実現に貢献します

医薬事業



得意技術によるイノベーションの推進、高品質な医薬品の安定供給により、医療の向上と医療費の効率化を通じて社会に貢献します

セイフティシステムズ事業



自動車安全部品で培った技術をベースに、進化するモビリティテクノロジーに対応した新たな安全部品を開発し、世界中のより多くの人々に安全を提供します

アグロ事業



有効性、安全性、環境適合性に優れた農薬を、使いやすかつ性能を生かす製剤技術とともに提供します

NORTH AMERICA

アメリカ

- Moxtek, Inc.
- MicroChem Corp.
- Argential, Inc.
- THE GILMORE ROAD PROPERTY, LLC
- NIPPON KAYAKU AMERICA, INC.

メキシコ

- Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V.

北米従業員数
合計

718名

凡例

- 本社
- 機能化学品事業
- 医薬事業
- セーフティシステムズ事業
- その他の事業

JAPAN

日本

- 日本化薬株式会社
- 株式会社ボラテクノ
- 株式会社ピクトリーブ
- 株式会社ニッカファインテクノ
- 厚和産業株式会社
- 日本化薬フードテクノ株式会社
- 株式会社TDサポート
- 群南産業株式会社
- 株式会社ナック
- 株式会社西港自動車学校
- 有限会社YMKサービス
- 和光都市開発株式会社
- 株式会社日本人材開発医科学研究所
- 株式会社沖浦ゴルフセンター

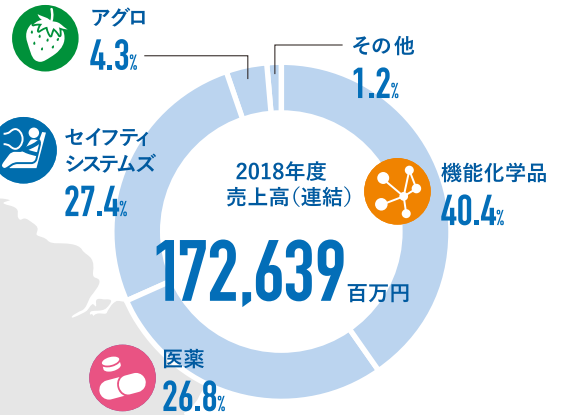
持分法適用会社

- 株式会社カルティベクス
- 三光化学工業株式会社
- カヤク・ジャパン株式会社
- 化薬アクゾ株式会社

国内グループ従業員数
合計

2,692名

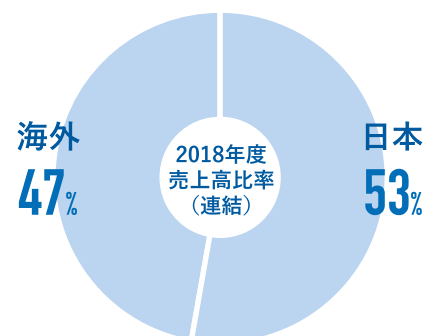
事業別売上比率（連結）



会社概要（2019年3月末現在）

会社名	日本化薬株式会社
設立	1916年(大正5年)6月5日
資本金	149億3千2百万円
本社所在地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
電話番号	03-6731-5200(代)
グループ会社	子会社35社 持分法適用会社4社
従業員数	単体:2,079人 連結全体:5,814人
決算期	3月31日
決算資料	詳細はウェブサイトをご覧ください https://www.nipponkayaku.co.jp/ir/library/

海外売上高比率（連結）



[注] 従業員数は就業人員であり、臨時従業員を含んでいません。対象は日本化薬本体と連結子会社27社です。

TOP MESSAGE



「生命と健康を守り、豊かな暮らしを支える」時代の変化を先取りし、
特長ある独自の技術をさらに進化させながら、
持続可能な社会・環境に貢献し続けます。



2019年6月25日付で代表取締役社長に就任いたしました涌元厚宏です。CSRレポート2019の発行にあたりご挨拶申し上げます。

私たち日本化薬グループは「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」(KAYAKU spirit)を企業ビジョンとしています。これは創業時より長く経営に携わった三代目社長の原安三郎の経営思想を現した社是「良心の結合」「不断の進歩」「最良の製品」がもとになっています。一人ひとりの良き心を結び合うという「良心の結合」のもと、組織であれ個人であれ、途切れることなく進歩を続けるという「不断の進歩」によって、世の中に必要とされる「最良の製品」を提供し、社会に貢献し続けようという、社員一人ひとりの活動を支えている当社グループ共通の理念です。

私たちはこのKAYAKU spiritを創業時より受け継ぎ、一貫して世のため人のために貢献しようという真摯な姿勢で事業活動を行ってまいりました。現代の大きな市場の変化にあっても、この受け継がれた遺伝子は変わることなく、私たちが継続して成長し続ける原動力であり、強みとなっております。

世界では人口の増加に伴う食料・水の不足、児童労働など労働環境に関する問題、地球温暖化の進行など、気候変動に関する「パリ協定」や国連の「持続可能な開

発目標(SDGs)」で提起された課題が山積しています。当社グループの事業環境では、IoTをはじめとする高度情報化社会が進展するなかでより高機能で省エネルギー・省資源・低環境負荷の化学品素材が求められています。医療分野では、国内の医療費の拡大が社会的な問題となり、自動車社会は世界中で拡大が続いており、車の安全性向上は、さらに重要な課題となっています。

私たちは、これらの社会課題に対して社会の公器である企業として真摯に向き合い、当社グループとして積極的に取り組んでまいります。これまで培ってきた柔軟に進化させる事業の強みを活かし、色素や樹脂の技術を応用した低環境負荷機能性材料などで超スマート社会を支える機能化学品事業、抗がん薬やバイオシミラーなどで患者様のQOL[※]向上や医療費低減に貢献する医薬事業、自動車安全部品をグローバルに供給し人びとの安全を守るセイフティシステムズ事業、そして安定した農業生産を支え食料問題に貢献するアグロ事業、これらの事業を通じて社会に共有価値を創造、提供してまいります。また、安心安全な職場環境の維持、豊富な人材の育成やダイバーシティの推進を図り、高い倫理観をもってCSR経営を実践しながら企業価値を高めてまいります。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※QOL : Quality of Life

代表取締役社長

涌元厚宏

CSRマネジメント

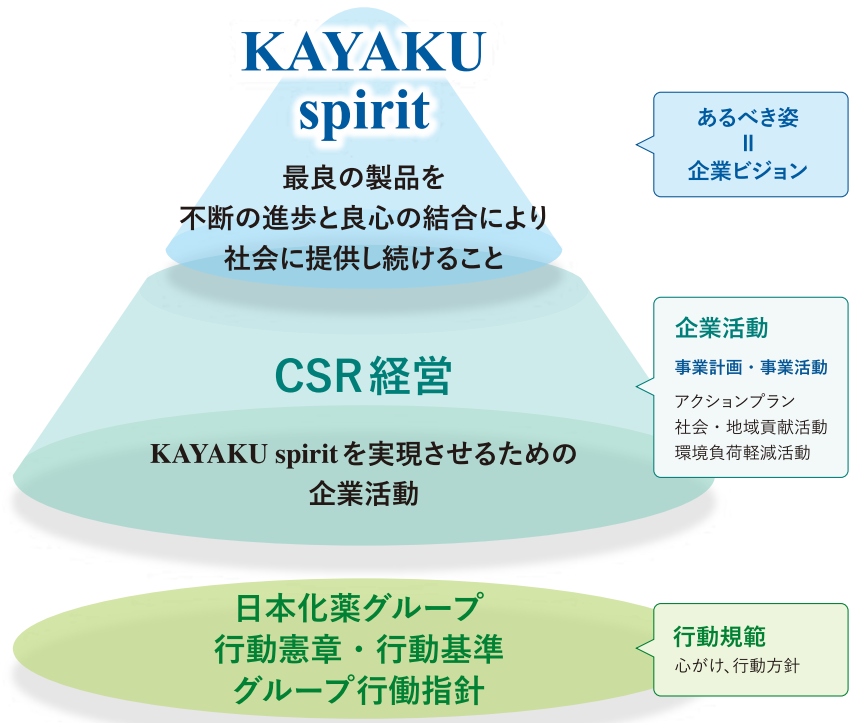
CSR Management

日本化薬グループは、KAYAKU spirit「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」を実現することにより、すべてのステークホルダーの信頼に応える CSR 経営を推進しています。

KAYAKU spirit と CSR 経営

KAYAKU spirit の「最良の製品を不断の進歩と良心の結合により社会に提供し続けること」は、日本化薬グループの企業ビジョンです。これは 50 年以上前に制定された社是「良心の結合」「不断の進歩」「最良の製品」をもとにして長く受け継がれてきた CSR 経営の原点です。私たちは企業ビジョン KAYAKU spirit を実現させるための社員一人ひとりの日々の企業活動そのものを CSR 経営と位置づけています。

2018 年度は、当社グループの CSR 重要課題（マテリアリティ）を特定し、中期 CSR アクションプラン 2019-2021 を策定しました。今後、進捗状況を確認・評価しながら中長期的な取り組みを継続的に行います。



人権の尊重と KAYAKU spirit

KAYAKU spirit の基本理念に「良心の結合」という言葉があります。私たちは、企業活動のあらゆる側面において従業員やお取引先などすべての人びとの「人権を尊重」し、お互いに良き心を結び合うことが企業経営の基本であると考えています。

■人権方針

日本化薬グループの行動規範である「日本化薬グループ行動憲章」に、個人の基本的な人権およびプライバシーの尊重を定めています。また、「日本化薬グループ行動基準」では第 24 条に人権とプライバシーの尊重について謳い、国内外を問わずすべての従業員の基本行動の原則としています。

■従業員への人権の取り組み

日本化薬では、グループ管理本部長を委員長とする「倫理委員会」を設けています。職場でのハラスメントや人権侵害がないよう

さまざまなテーマで議論をしています。管理職をはじめ従業員に対し、人権配慮やパワーハラスメント・セクシャルハラスメント・マタニティハラスメント防止、あるいはLGBTへの理解促進などについて、定期的に社内研修や外部講師を招いての講演会を開催しています。社員のダイバーシティ & インクルージョンに取り組み、いきいきと働ける職場環境づくりに継続的に努めています。

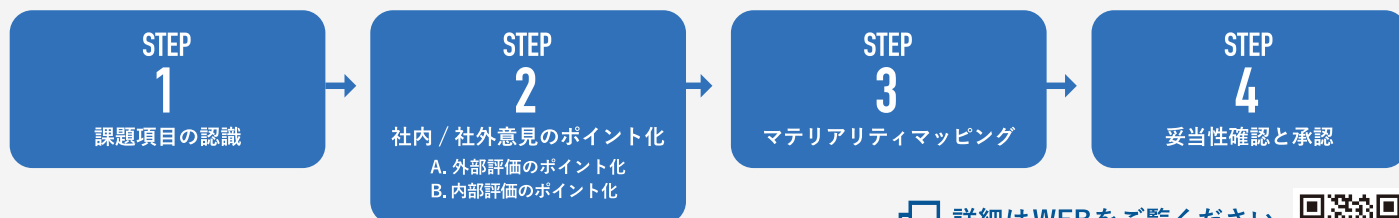
■CSR 調達における人権への配慮

日本化薬グループの CSR 調達の基本方針である「日本化薬グループの購買基本方針」において、日本化薬グループ行動憲章・行動基準に基づいた判断をすることを掲げています。さらに CSR 調達ガイドラインでは第 2 章「人権と労働」で非人道的な扱いや差別の禁止、強制労働や児童労働の禁止について具体的に定めています。当社グループはお取引先や協力会社とともに人権に配慮した購買活動を行います。

CSR重要課題(マテリアリティ)

2019年度からの中期事業計画 **KAYAKU Next Stage** の策定にあたり、取り組むべき課題を整理し、CSR 重要課題 (マテリアリティ) を特定しました。

CSR 重要課題 (マテリアリティ) の特定プロセス



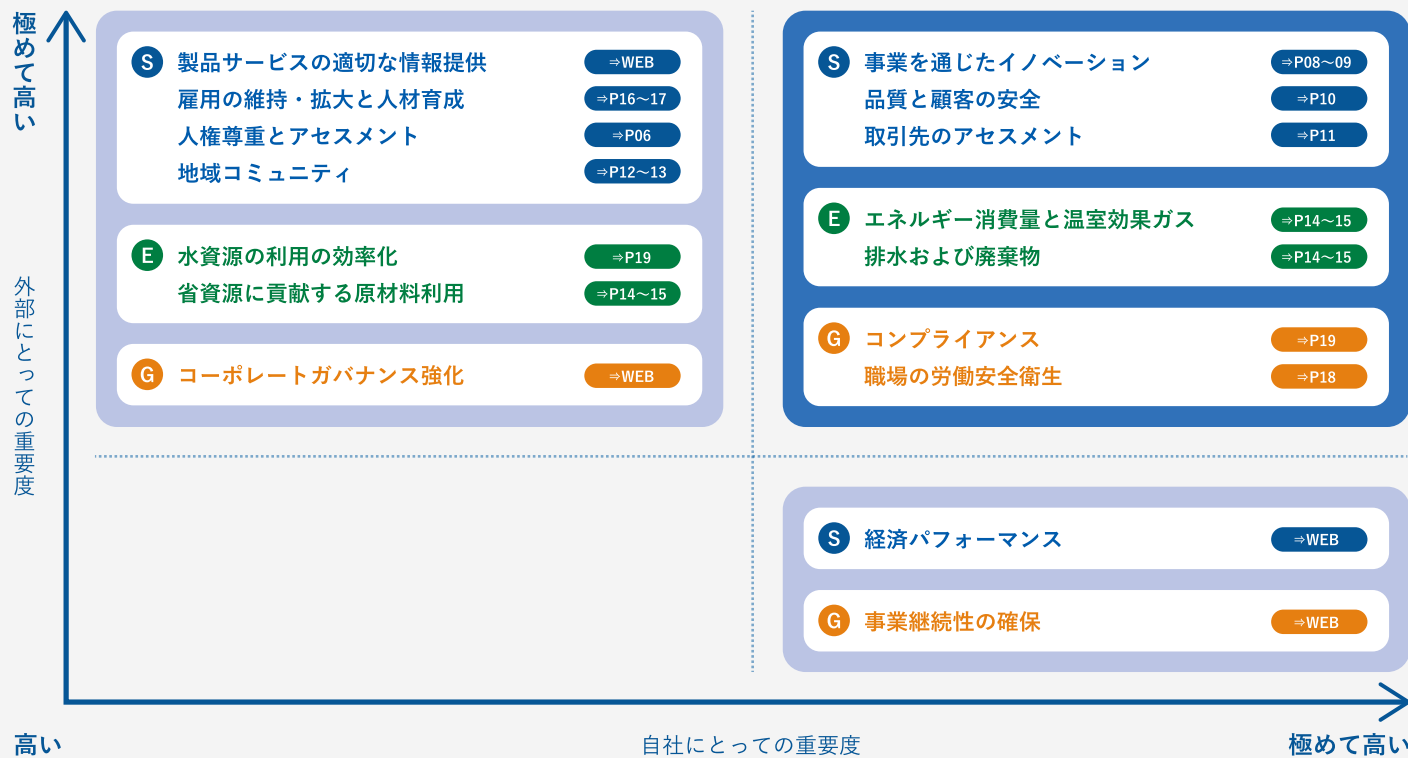
詳細はWEBをご覧ください

<https://www.nipponkayaku.co.jp/csr/philosophy.html>



日本化薬グループの CSR 重要課題 (マテリアリティ)

S...Social E...Environment G...Governance



CSR 推進体制

社長を委員長とする CSR 経営委員会を 2010 年に設置し、経営戦略本部経営企画部に CSR 推進担当を組織しています。CSR アクションプランの目標や結果は CSR 経営委員会にて審議、決議してトップダウンで推進しています。また、CSR 推進担当は組織横断的な CSR プロジェクトを運営し、各部門・事業場やグループ会社が主体的に取り組む体制をとっています。



豊かな生活を目指した日本化薬グループの 現在および未来の製品や技術

ドローン向け非常用パラシュート安全装置

土木用火薬、爆薬、破砕剤類
含水爆薬、アンホ爆薬
電気雷管、非火薬破砕剤

フレキシブルディスプレイ
ウェアラブルパソコン
有機半導体

印刷材料
感熱顕色剤

偏光サングラス
偏光素膜

デジタルカメラ
微細カラーフィルタ用カラーレジスト
ブラックマトリックス用樹脂

プロジェクター
偏光フィルム
無機偏光板

スマートフォン、タブレット
カラーレジスト用樹脂、カラーフィルタ用色素
半導体封止材用エポキシ樹脂
フラッシュLED封止用ハイブリッド樹脂
液晶シール剤、コート用樹脂、タッチパネル用接着剤

薬品
品質保持剤

のぼり旗
捺染用インクジェット色素

食品
健康食品原料

洋服
染料

衛生用品
ウエットクロス

カーテンエアバッグ
インフレーター

ダンボール
紙用染料

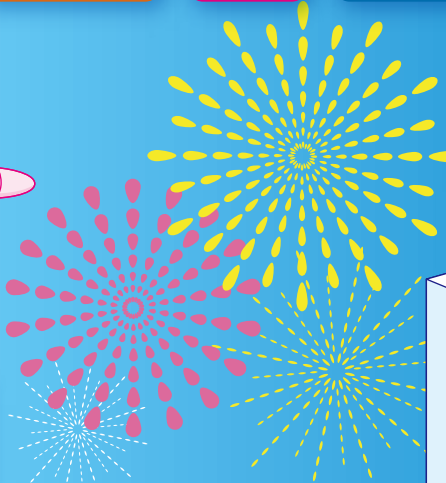
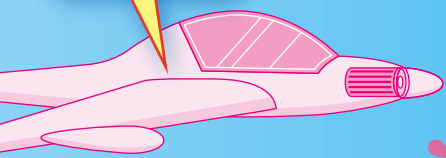
除菌スプレー
エタノール製剤

自動車用ウィンドウ
熱制御フィルム

農業
殺虫剤、除草剤、
土壌くん蒸剤

ケーブル保護
防鼠剤
害虫駆除
防疫剤

CFRP
マトリックス樹脂



花火
黒色火薬
煙火用火工品



医療
医療機器
原薬
診断薬

廃水処理技術
水をきれいにし
自然にかえす技術

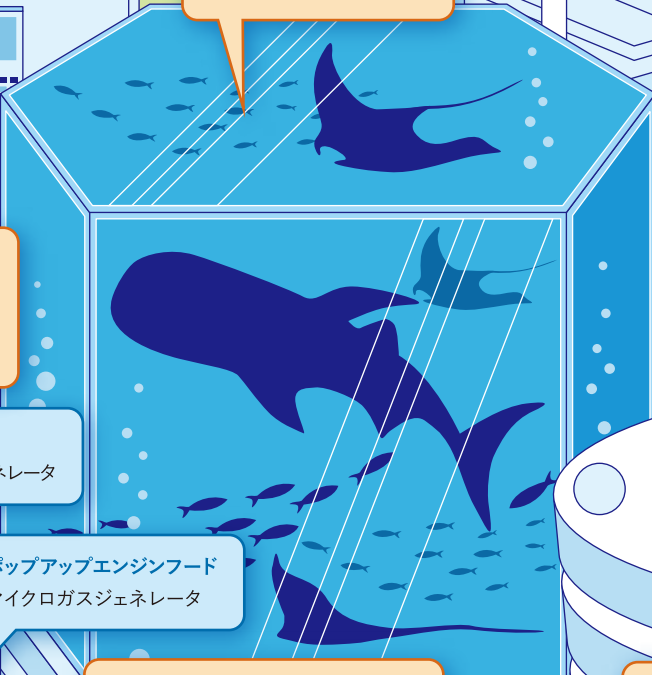


医療用センサー
エネルギー変換材料

医療用医薬品
抗がん薬
ジェネリック医薬品
バイオシミラー

抗がん薬内包高分子ミセル

巨大水槽
透明樹脂の原料である
メタクリル酸製造用触媒



おむつ
高吸水性樹脂の原料
であるアクリル酸製造
用触媒



トイレトーパー
紙用染料

車載用シート
染料
シートベルト
染料

シートベルト
マイクロガスジェネレータ

ポップアップエンジンフード
マイクロガスジェネレータ



車載用ディスプレイ
液晶ディスプレイ用フィルム
液晶シール剤

エンジン
モーター制御半導体用エポキシ樹脂
プリント基板用樹脂

ヘッドアップディスプレイ
光制御フィルム

自動車用センサー
エネルギー変換材料

ディスプレイ
半導体封止材用エポキシ樹脂
液晶シール剤
液晶パネルスペーサー用樹脂
カラーレジスト用樹脂
コート用樹脂
プリント基板用樹脂
機能性フィルム
カラーフィルタ用色素
赤外線吸収剤

ふせん
紙用染料

エアバッグ
インフレーター
サイドエアバッグ
インフレーター



CFRP
マトリックス樹脂

アクリル塗料、ライトカバー
塗料・部品の原料である
アクリル酸製造用触媒、
樹脂接着剤



光ディスク
接着剤
コート剤

プリンター
インクジェット
プリンタ用色素

お客様とともに

With customers

品質マネジメントシステムの継続的な改善と現場力の強化を図り、「品質経営」を推進します。

マネジメント・アプローチ

日本化薬グループはお客様に最良の製品を提供するため、「環境・健康・安全と品質に関する宣言」を制定し、全社的に品質マネジメントシステムを構築し、品質経営を推進しています。製品品質の向上や安全性・信頼性に配慮した技術・サービス・情報提供がお客様の満足度向上につながるよう取り組んでいます。



①「なぜなぜ分析」マニュアル ②③ Field Data 解析おもしろ体得塾による実験風景 ④ 姫路工場の品質研修にマレーシアから参加 ⑤ 医薬品情報センター

KSM 自動車産業向けの IATF 16949 品質管理認証を取得

KSM[※]は、新しい品質マネジメントシステムの取得に向けて、品質管理部が主導して従業員の教育を行い、第三者認証機関(LRQA)による外部監査を受け、2018年6月に自動車産業向けIATF16949品質管理認証を取得しました。

この認証は、LRQAによる定期的な監査が必要であり、この認証を維持することは、製造活動を通じて高品質で安全な製品を提供し顧客満足度を向上するというKSMの使命を全うすることにつながります。今後も継続的に努力をしていきます。



※KSM：Kayaku Safety Systems de Mexico, S.A. de C.V. メキシコにある自動車安全部品の製造会社

お取引先とともに

With our business partners

CSR 調達ガイドラインに基づき、 環境・社会面に配慮したサプライチェーンを構築します。

マネジメント・アプローチ

日本化薬グループは 2015 年に購買理念と購買基本方針および CSR 調達ガイドラインを定めました。研究・開発から原材料の調達、製造、販売、物流までのサプライチェーンにおけるすべての段階においてサプライヤーの皆さまと一緒に安定調達や安定供給に努めることが重要であると認識しています。サプライヤーの皆さまと積極的にコミュニケーションをとり、法令遵守や人権尊重、労働安全衛生などに努めていきます。



① 取引先での CSR 調達説明会 ② CSR 調達ガイドブック

購買説明会の開催

セイフティシステムズ事業では、日頃お世話になっている協力会社を対象に、年に一度「購買説明会」を実施しています。これは、日本化薬グループの業績見込みや次年度以降の事業計画、生産体制の現況、開発計画、中長期ビジョン、購買方針を説明し、これらを協力会社の事業計画の参考情報の一つとしていただくことを目的としています。

当社を含め自動車産業のサプライチェーンを担う協力会社は、めまぐるしく変化する国内・国際情勢、原材料相場、為替変動などの外的環境に即応しながら、顧客に遅延を起こすことなく、高品質・低コストの製品を供給し続けなければなりません。この購買説明会が貴重な情報交換の場となるよう有益な情報を提供することを心がけています。

また、品質・コスト・納期に模範的な対応をとっていただいた協力会社に、「優秀協力会社賞」を進呈しています。



地域社会とともに

Together with local community

「健康で豊かに暮らせる社会」の実現を目指して、
未来を担う子どもたちの育成支援や、地域密着型の活動に
取り組んでいます。

マネジメント・アプローチ

日本化薬グループは積極的に地域社会の活動に参加し、次世代を担う子どもたちの教育支援やステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを活発に行い地域に根付いた会社を目指しています。また、「生命と健康を守る」企業として「難病とたたかうお子さんと家族の手助けを」を合言葉にあすなるの家の活動を 20 年以上続けています。



① KSE(チェコ)従業員のピンクリボン活動 ② 福山工場の教育CSR活動 ③ 厚狭工場の教育CSR活動

健康で豊かに暮らせる社会づくり

KSM ピンクリボン活動

KSM*では、ピンクリボンキャンペーンを社内で行い、すべての従業員を対象に乳がんの早期発見の重要性、セルフチェックの方法などを教え、従業員たちの家族にもその情報を共有するように呼びかけました。

2018 年は、赤十字(Cruz Roja Mexicana)から講師を招き、乳がんの早期発見の重要性やセルフチェックの方法、乳がんの特性を中心に、健康な生活を送ることの重要性について講義していただきました。また、講義だけでなく、実際にシリコンのサンプルを使って乳がんのセルフチェックの方法を学び、

従業員と講師の間で意見交換を通して乳がんについての知識を深めました。

※ KSM：メキシコにある自動車安全部品の製造会社



次世代育成支援

姫路工場 施設見学型「教育 CSR」

2016年の創立100周年記念事業から開始した「しゅわしゅわタブレット作り」と「工場見学」を姫路工場近隣の豊富小学校の6年生対象に実施しました。2018年度は4回目の開催となり24名が参加しました。

子どもたち全員が興味を持ち参加できるよう火薬に関する知識などをクイズ形式にしました。また、化学やモノづくりにも興味を持てるように姫路工場で製造しているガス発生剤を模した入浴剤の「しゅわしゅわタブレット作り」を行いました。

子どもたちの工場見学は製造ラインだけでなく、普段ではめったに体験できない「エアバッグ展開」を間近で観察して安全についての興味を持ってもらいました。



地域への取り組み

KSE セイフティ・デイズ

KSE※は、地元のVsetin市と共催で交通安全イベント「セイフティ・デイズ」を2018年5月14日～20日の7日間開催しました。セイフティ・デイズ期間中は、図書館での講演会や映画館でのショートムービー、子どもたちの創作コンテスト、ポンプ車の体験プログラムなどがありました。

KSEは、会場でチェコの国産車に搭載しているKSEの安全製品の展示や紹介、衝突時のシミュレーションなどに参加しました。

また、Vsetin市立警察から自転車の安全保護具や盗難防止に関する情報提供や赤十字協会から怪我をした際の処置対応の紹介もあり、特に人気を集めたのは、事故を起こした車体から搭乗者を救出するVsetin市消防団のデモンストレーションでした。

今後も地元と協力して地域住民の安全に貢献していきます。

※ KSE : Kayaku Safety Systems Europe a.s. チェコにある自動車安全部品の製造会社



地球環境とともに

Together with global environment

「環境・安全衛生・品質」に関する課題を、あらゆる経営課題に優先し、グループ全体で取り組みます。

マネジメント・アプローチ

日本化薬グループは、CSR 理念とレスポンシブル・ケア精神による「環境・健康・安全と品質に関する宣言」に基づき、持続可能な社会を実現するため「安全第一」「環境経営」「健康経営」につながる活動を展開しています。2018 年度レスポンシブル・ケア方針では、生物多様性への配慮についても掲げました。今後も社会情勢の変化による「リスク」と「機会」を認識し活動を続けていきます。



① 高崎工場クリーク ② 姫路工場太陽光パネル ③ 福山工場 廃水処理場

日本化薬 中期環境目標と 2018 年度の実績

	地球温暖化防止	化学物質排出量削減		廃棄物削減		
	エネルギー起源 CO ₂ 排出量 ^{※1} (生産部門+業務部門)	VOC ^{※2} 排出量	COD ^{※3} 排出量	廃棄物発生量	リサイクル率	ゼロエミッション率 ^{※4}
2018 年度実績	69.7 千トン	25.6 トン	133.7 トン	21,491 トン	81.4% 工場外移動量 20,080 トン 内、産業廃棄物 最終埋立処分量 874 トン	4.1%
前年度比	2.2% 減	4.5% 増	1.2% 増	4.5% 増	1.7 ポイント増	1.5 ポイント減
2020 年度目標値	79.5 千トン以下	42 トン以下	150 トン以下	23,500 トン以下	80% 以上	3.0% 以下

※1 エネルギー起源 CO₂ 排出量：2005 年度 (82.6 千トン) を基準として 3.8% 削減が政府方針

※2 VOC：Volatile Organic Compounds (揮発性有機化学物質) 集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理

※3 COD：Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) 水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標の一つ

※4 ゼロエミッション率：日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義

日本化薬

地球温暖化防止の取り組み

日本化薬の各事業場では、ユーティリティー設備の運用改善や高効率設備への置き換え、照明のLEDへの変更などの省エネルギー対策に取り組んできました。

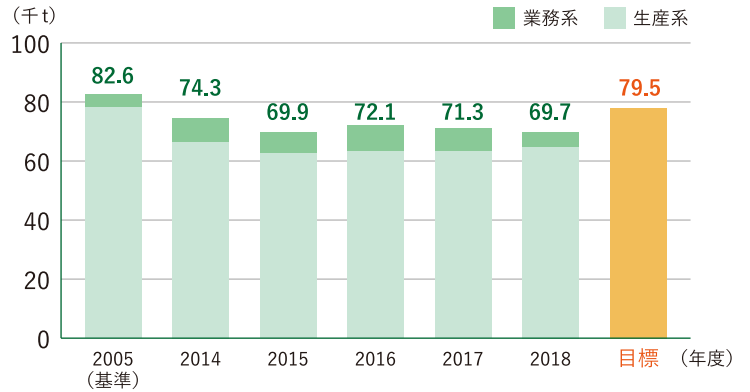
また、従業員の各家庭でのCO₂排出量削減を促すため、電気使用量だけに特化した「わが家はただいま節電中!」を企画し、省エネ活動を推進しています。

ただいま節電中!



なお、地球温暖化対策としては、パリ協定(COP21)を勘案し、2030年度中期環境目標値をより厳しくすべく内容を検討しています。従来の省エネルギー対策の手法だけでなく、エネルギーロスそのものに着目した活動に注力しています。

エネルギー起源CO₂排出量



日本化薬グループ

廃棄物削減の取り組み

産業廃棄物削減のCHANGE&CHALLENGE

チェンジ チャレンジ

株式会社ポラテクノ[※]は、主力製品である“偏光板”の生産工程から廃プラスチック類・廃樹脂・廃液などの産業廃棄物を排出しています。そこで、廃棄物の発生抑制・リサイクルや省資源化に継続的に取り組むため、産業廃棄物削減部会を結成し、廃棄物削減のアイデアを従来の手法にとらわれず (CHANGE)、実現することに挑みました (CHALLENGE)。

まず、2016年度の結果をゼロエミッションの観点で考察・検討し、少量多品種の製品構成に伴う工程の切替え時に原材料や製品在庫量を調整しながらまとめ生産を行い、廃プラスチック類・廃液を削減しました。次に、粘着加工工程で調合する樹脂量の最適

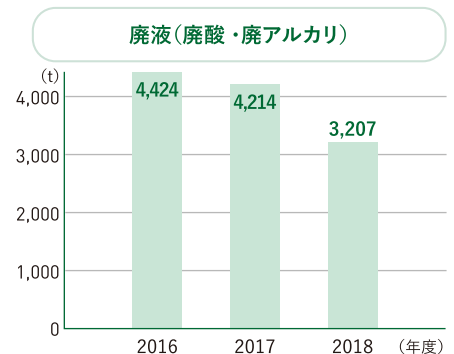
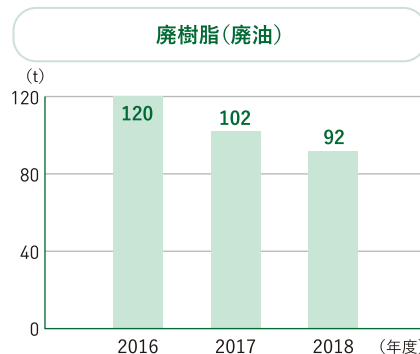
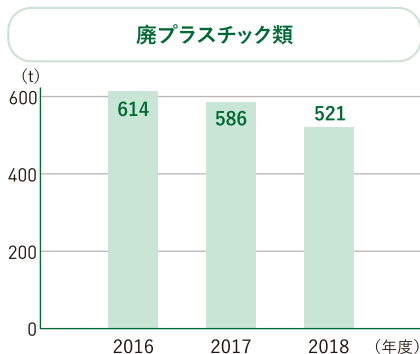
を見極め、余剰発生する廃樹脂の削減を実現しました。

2018年度は廃液を再利用するリサイクル設備が稼働し、廃液を大幅に削減することができました。

環境にやさしい事業運営ができるよう引き続き産業廃棄物の削減に取り組めます。



ポラテクノ産業廃棄物排出量



※ 株式会社ポラテクノ：新潟県上越市にある偏光フィルムをはじめとした光をコントロールする部材の製造会社

従業員とともに

Together with employees

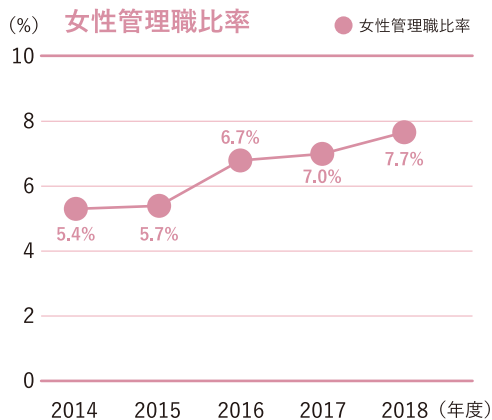
ダイバーシティ&インクルージョンの推進により、ものづくり技術力の継承・強化と人材のグローバル化に努めます。

マネジメント・アプローチ

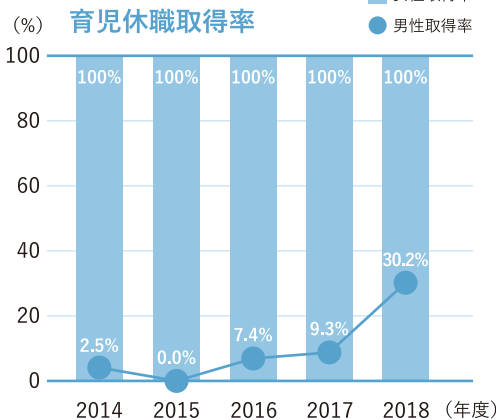
日本化薬グループは、KAYAKU spirit 実現の行動主体である従業員一人ひとりの人権を尊重し、ダイバーシティ&インクルージョン※1(良心の結合※2)を念頭に置いた人材マネジメントにより、「いい会社・強い会社になる」ことを目指しています。従業員全員が、個々の能力を最大限発揮し、やりがいを持ち、いきいきと働くことができる会社(いい会社)は、自らの成長と会社の継続的な発展(強い会社)を可能とします。この達成に向け、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境づくりと新たな付加価値創造に向けたさまざまな「働き方改革」に取り組んでいます。



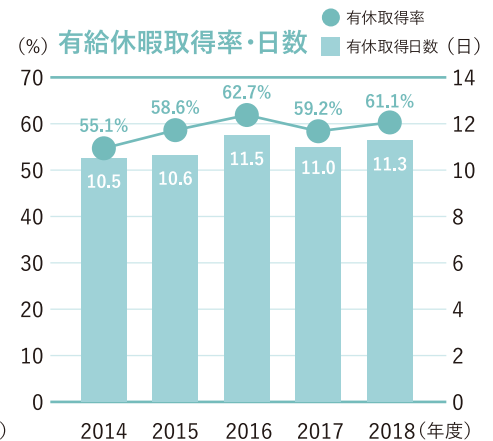
ダイバーシティの推進



男女共同参画



ワーク・ライフ・バランスの充実



※1 ダイバーシティ&インクルージョン：人材の多様性を受け入れ、従業員一人ひとりの違いを認めながら活かしていく考え方
 ※2 良心の結合：社是の言葉。P6「CSR マネジメント」をご参照

VOICE

ダイバーシティの推進

ダイバーシティを推進する 会社の支援に共感します

入社2000年当時のKSE※の従業員数は107名、現在では1,076名(内女性539名)が在籍しています。女性管理職数は、私を含め4名で、女性のチームリーダーは、人事部1名、製造部10名です。会社の発展のため最も重要なのはチームのダイバーシティだと思っています。

私たち女性従業員は、良い仕事環境とワーク・ライフ・バランスを常に求めているので、人事部では産休から戻ってくる女性の職場復帰を支援するため、幼い子どもを持つ女性のために一部の職場でアルバイト制度を導入しました。

女性にとって製造部門で働くことはとても厳しいことですが、女性作業者たちからは、KSEは安定的で従業員への



Kayaku Safety Systems Europe a.s.
Jitka Simarova

教育等をしっかりと行ってくれる会社だと高く評価を受けています。女性は仕事と家庭の両立を達成するために、強く自立した女性であるべきだと考えています。自分自身の欠点を認め、それらを乗り越え自分の価値と人生の価値を理解して生きていくべきだと思います。

※KSE：チェコにある自動車安全部品の製造会社

男女共同参画

仕事から離れ、家事育児に専念 できるからこそ、新しい気づきがあります

私は、第二子出産による妻の負担軽減および第一子(当時3歳)の心の充足を目的に、半年間の育児休職を取得しました。

育児休職期間中は、毎日全力で泣き成長していく第二子と、新たな環境に戸惑いながらも受け入れて成長する第一子の姿を夫婦で見守るという充実した時間を過ごし、今まで以上に家族の幸せを感じる日々でした。その一方で、24時間子どもと向き合い続けることの大変さも強く実感しました。

また、第一子の保育園送迎から園での日常生活に触れる中で、子どもが毎日保育園で頑張ってくれているからこそ、共働きの私たちが仕事を続けることができるということ



機能化学品事業本部 企画部
眞崎 康治

にも気づかされました。仕事から離れ家事育児に専念する育児休職は、新しい気づきをたくさん与えてくれ、私の人生において大変貴重なものとなりました。

職場の皆さまには育児休職の取得および復職に際し快くご対応いただき大変感謝しています。

重要課題に対するその他の取り組み

Other Activity

2019年度からの中期事業計画 **KAYAKU Next Stage** の策定にあたり、取り組むべき課題を整理し、CSR 重要課題（マテリアリティ）を特定しました。特定したマテリアリティの各項目については、CSR 活動目標に反映させ、成果の創出に向けてマネジメントを行っています。



重要課題

事業を通じたイノベーション

アグロ事業部 新規殺虫剤(ファインセーブ®)で農業生産に貢献

2018年6月に販売を開始した「ファインセーブ®」は、ねぎ、たまねぎ、トマト、いちご、だいこんやキャベツなどで問題視されている害虫のアザミウマ類、タバココナジラミ類、サビダニ類、コナガなどに効果の高い新しい有効成分を有する新規の殺虫剤です。

「ファインセーブ®」は、天敵や有用昆虫への影響が小さい新しいタイプの薬剤なので、これまで農業使用が制限されていた生育時期にも使用が可能です。この特徴を最大限に活かし、栽培体系、薬剤の使用状況などを現場の指導機関と相談しながら効率的で上手な使い方を提案しています。

今後、本剤が農業生産の現場で貢献できるように活動していきます。

重要課題

職場の労働安全衛生

健康経営優良法人 2019 ホワイト500 の認定取得

日本化薬は、「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業」として評価され、健康経営優良法人 2019 大規模法人部門（ホワイト500）※に認定されました。

従来から、従業員の健康保持・増進のために健康診断受診率100%の維持やストレスチェック、メンタルヘルス研修など多くの取り組みを実施してきました。

このたびの認定は、健康増進のための取り組み課題を抽出し、この課題に対して健康診断結果改善の取り組みや受動喫煙対策、全社員による健康づくりイベントなどの改善策を実施したことが評価されました。具体的には、健康診断結果改善の取り組みでは有所見者全員の産業医面談に加えて有所見率の高い項目について安全衛生委員会で産業医の指導を受け健康改善につなげました。

従業員の健康増進は、企業の繁栄とひいてはステークホルダーの満足度向上に必要なものと考え、今後も健康経営に積極的に取り組んでいきます。

※ 健康経営優良法人大規模法人部門（ホワイト500）：経済産業省が2016年に創設した認定制度「健康経営優良法人」のうち、規模の大きい企業や医療法人を対象とした大規模法人部門の認定法人を指す愛称



重要課題

事業を通じたイノベーション

ドローン向け非常用パラシュート安全装置 「Para Safe」(商標登録出願済)

物流、測量、点検、災害救助などの分野でドローン(無人航空機)の利活用が世界的に進められています。日本化薬では、エアバッグ用インフレーターやシートベルト用ガス発生装置等の自動車用安全部品で培った火工品技術を応用して、ドローン用パラシュート安全装置を開発しています。ドローンの落下を検知し、火工品を遠隔的に作動させることで、高速でパラシュートを展開し、安全にドローンを降下させる装置です。ドローン機体本体、搭載物、人命を守り、社会におけるドローンの活躍の場をさらに広がられます。サンプルワークを通し、ドローンメーカー様からご意見をいただき、安全装置の信頼性を上げてまいります。製品化は、2021年以降を見込んでいます。



重要課題

コンプライアンス

中国グループ会社への浸透

2018年6月、中国にあるグループ会社6社の総経理と倫理担当者が集まり、第2回倫理担当者会議を開催しました。中国での内部通報制度の構築とコンプライアンスアンケートの実施について話し合った結果、外部の法律事務所に通報・相談窓口を設置し、各グループ会社で内部規程を作成したうえで内部通報制度の運用を開始しました。また、第1回コンプライアンスアンケートを実施し、その結果を各グループ会社及び本社の所管事業部へフィードバックしました。

さらに、当社内部統制推進部とKSC*の法務担当が協力して、現地従業員へのコンプライアンス研修を各グループ会社で開催し、継続してコンプライアンスの浸透を図っています。

※ KSC：化薬(上海)管理有限公司 中国にある管理会社



重要課題

水資源の利用の効率化

KSE 雨水を活用する施設

KSE*は、環境保護を推進するための設備投資活動の一貫として、雨水をより効果的に利用するための貯水タンクシステムを導入し、雨水を飲用以外の用途として利用することで、水道水の使用量を減らすだけでなく費用の削減にもなりました。

2017年度は、55m³の貯水タンクを駐車場の下に建設し設置しました。設置にあたっては、チェコ共和国の法規制を遵守するため、建設中には政府による定期検査を受けました。

2018年度は、新築予定の建物の地下に容量75m³と152m³の貯水タンクをそれぞれ2基ずつ設置しました。さらに、2019年は容量198m³の貯水タンク3基を地下に建設中です。これからも日本化薬グループのCSR経営に貢献していきます。

※ KSE：チェコにある自動車安全部品の製造会社

